

学芸員と巡る!掛川三城ツアーー 横須賀城編 (資料)

令和5年6月3日(土)
掛川市文化・スポーツ振興課 文化財係

はじめに

- 天正8年(1580)頃、武田方の高天神城を攻め落とすための拠点として、徳川家康家臣の大須賀康高が築城。
⇒ 戦いのための砦から遠江南東部を支配するための拠点として整備(江戸時代は横須賀藩の居城)。
⇒ 井上氏の段階で三の丸(17世紀前半)、本多氏の段階(17世紀後半)で二の丸を整備(横須賀城の拡大)。

- 横須賀城の一般的なイメージ
⇒ 江戸時代の城? 玉石積みみの石垣で有名な城?
⇒ 今回は普段注目されない横須賀城に残る知られざる遺構を中心に巡ります。

1. 横須賀城を見るポイント

ポイント① 戦国時代から残る大空堀

- 幅30m、深さ15mの巨大な空堀。
- 尾根を分析し、東側からの敵の侵入を遮断。
- 戦国期は松尾山、本丸、西の丸が主要な曲輪として使用されたと考えられ、横須賀城に残る数少ない現存遺構。

ポイント② 南外堀の痕跡と高低差

- 静岡県道41号線と松尾町の集落の間にある高低差が南外堀の名残。
- 高低差に沿って、外堀の石垣が見つかっている。

ポイント③ 北外堀の痕跡

- 二の丸の北側は明治時代以降に大きく改変されておらず、北外堀の城内側のラインが残存。
- 現況の地形と「遠州横須賀城図」の北外堀の対比。

ポイント④ 二の丸を仕切る土塁

- 二の丸と西曲輪を仕切る土塁が残存。
- 江戸時代には土塁の上に土塀が建てられていた。









ポイント⑤ 横須賀城内における石垣の使い分け

- 横須賀城内はいわゆる「総石垣」の城ではない。
- 城門付近、大手門から本丸に至るルート、城下町や横須賀街道から見える地点を中心に石垣が築かれている。

2. 横須賀城で見つかった「モノ」

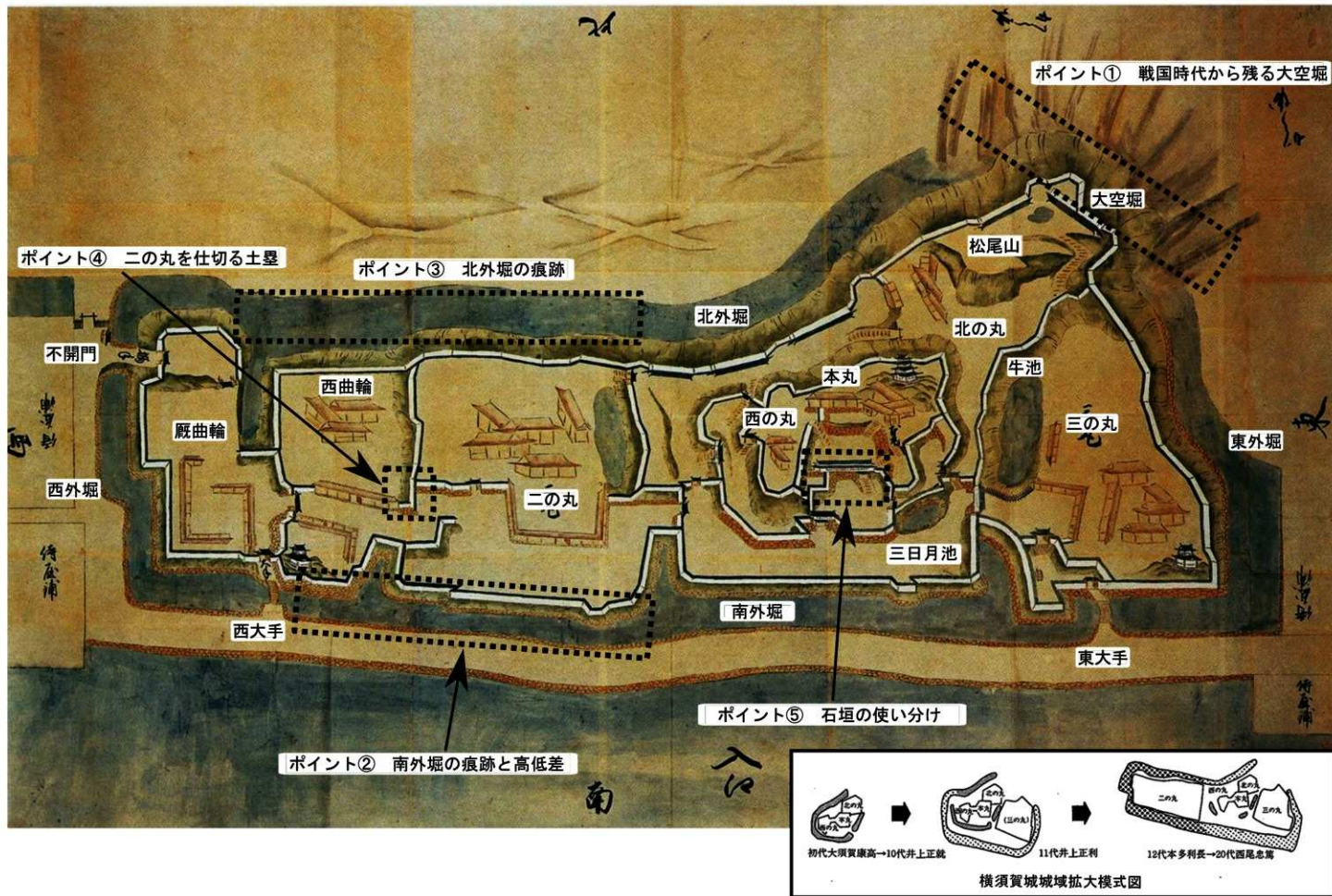
- 近世の城郭で特筆されるのが建物の屋根に葺かれる「瓦」。
⇒ 豊臣秀吉の時代から江戸時代初期の「築城ラッシュ」において、瓦葺きの建物が全国に普及。
⇒ 一般庶民の家に瓦が普及するのは、江戸時代中期以降。

- 横須賀城における「瓦」の特徴
⇒ ① 豊臣秀吉の時代、② 本多氏の時代、③ 西尾氏の時代。

年号	城主	使用された瓦
天正8年(1580) ~ 天正19年(1591) 天正19年(1591) ~ 文禄4年(1596) 文禄4年(1596) ~ 慶長6年(1601) 慶長6年(1601) ~ 元禄元年(1615)	大須賀氏 渡瀬氏 有馬氏 松平氏	 <p>軒丸瓦 (三巴文)</p>  <p>軒平瓦 (三葉文、五葉文、宝珠文)</p>
元禄元年(1615) ~ 元禄5年(1619)	徳川氏	
元禄5年(1619) ~ 元禄9年(1623)	松平氏	
元禄9年(1623) ~ 正保2年(1645)	井上氏	
正保2年(1645) ~ 天和2年(1682)	本多氏	  <p>軒丸瓦 (立葵文) 軒平瓦 (立葵文)</p>
天和2年(1682) ~ 明治元年(1868)	西尾氏	  <p>軒丸瓦 (松松文、楕7本) 軒丸瓦 (松松文、楕9本)</p>   <p>軒棧瓦 (松松文) 軒棧瓦</p> <p>(城東郡美輪村の瓦師山本氏銘)</p>

資料① 横須賀城の歴代城主と発掘調査によって見つかった瓦

資料② 遠州横須賀城図 (国立国会図書館蔵/寛文年間)



資料② 現在の地図と「遠州横須賀城図」の重ね図（国土地理院地図を元に作成）

